



2023年3月期（第36期）

決算補足資料

（2022年4月1日～2023年3月31日）

【目次】

1. 2023年3月期 エグゼクティブサマリー
2. 2023年3月期 連結決算 前年同期比較
3. 2024年3月期 連結業績予想
4. 2024年3月期 配当について

エフビー介護サービス株式会社

証券コード番号：9220

東証スタンダード市場

1. 2023年3月期 エグゼクティブサマリー

- (1) 2023年3月期においては、株式会社シルバーアシストの子会社化、福祉用具事業・介護事業の事業所開設により売上高は増収であったが、光熱費、特に電気料金、及び食材の高騰は想像以上に影響が大きかったと認識をしている。光熱費、食材等の高騰については2024年3月期も継続し、更なるコスト増見込みを認識しているが、入居者の施設生活の楽しみの一つである「食」のグレードを変えることなく食材仕入れ、調理方法の変更や照明のLED化を進め、尚且つ利用者負担増も視野に入れ取り組む。
- (2) 昨今の介護人材の不足、また今後の介護離職や人材確保を補うため、非正規従業員の正規従業員への登用の実施、及び年間休日の増加を図るために実施した人的投資による費用が発生したため、今期の通期決算に影響を及ぼしている。しかし介護業界は全てが「人」で成り立っているため、今回の人的投資は今後益々懸念される介護人材の不足に対応する手段として必要不可欠であり、良い人材が良いサービスを提供することが、企業の存続要因の一つとして認識している。例えば年間休日の増加を図るため2023年1～3月に実施した人的投資でも新規に入社した人材が育ってきており、今後、柔軟な人員配置等による生産性の向上が見込まれる。M&A等の事業拡大を図る上でも戦力になっていくと考えている。
- (3) 2022年3月期に発生した子会社株式の売却益が剥落し、2023年3月期は減損損失、及び関係会社出資金評価損の計上により、特別損失が大幅に上昇したこと、新規上場による資本金の増加等により法人税等が増加したことが、最終減益の大きな要因として認識をしている。今後、減損した事業所に対し更なるテコ入れを実施するとともに、2023年3月に新規開設した4拠点（長野県松本市：看護小規模型居宅介護、長野県諏訪市：グループホーム、埼玉県羽生市：グループホーム、栃木県小山市：福祉用具営業所）を含めた各事業所の満室運営、福祉用具事業、在宅介護サービスの利用者の更なる増加を図り、真摯に経営改善に取り組む。

2. 2023年3月期 連結決算 前年同期比較

増収減益の決算となったが、事業拡大のための施策(株式会社シルバーアシストの子会社化、新規事業所の開設)、物価高騰による食材費や光熱費等の特殊要因(下記コメントご参照)がなければ、営業利益ベースで増益を確保している。業績の拡大のため、当社は事業規模を拡大していくことが重要であり積極的に投資をしていく。また外的要因(物価高騰等)に対して、2022年11月に施設利用料への転嫁を実施したものの、どのように対応していくかがカギになると考えている。

(単位：百万円)

	2022年 3月期	2023年 3月期	増減額	前年比	コメント
売上高	9,185	9,619	433	104.7%	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社シルバーアシストの子会社化及び1福祉用具営業所の新設による売上高増加(121百万円) その他の要因(上記の特殊要因を除いた増加額)(312百万円)
売上原価	7,629	8,065	436	105.7%	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社シルバーアシストの子会社化及び1福祉用具営業所の新設によるコストの増加(136百万円) 物価高騰による食材費や光熱費の上昇(62百万円) 4介護事業所新設による初期投資費用が発生(61百万円) 2024年3月期から開始する年間休日108日から120日体制にするための従業員増加等による人件費と人材紹介費用の増加(11百万円) その他の要因(上記の特殊要因を除いた増加額)(166百万円)
売上総利益	1,556	1,553	△3	99.8%	<ul style="list-style-type: none"> 売上高が増加したものの、上記の要因によるコスト増を吸収しきれず、微減 ただし、上記の特殊要因を除いた売上総利益は146百万円増加
販売費及び一般管理費	907	1,010	103	111.4%	<ul style="list-style-type: none"> 売上原価同様の要因による人件費の増加(17百万円) 上場関連費用の増加(32百万円)
営業利益	649	543	△106	83.6%	販売費及び一般管理費の増加を吸収しきれず減益

(単位：百万円)

	2022年 3月期	2023年 3月期	増減額	前年比	コメント
営業外収益	43	234	190	536.0%	新設した3介護事業所に対する整備補助金等による補助金収入の増加(167百万円)
営業外費用	45	41	△3	91.5%	借入金の返済による支払利息の低減(5百万円)
経常利益	647	736	88	113.7%	補助金収入により増益
特別利益	71	—	△71	—	2022年3月期に発生した子会社株式の売却益が剥落
特別損失	9	41	31	436.5%	関係会社出資金評価損と減損損失が発生
税金等調整前 当期純利益	709	695	△14	97.9%	特別利益の剥落と特別損失の増加により減益
法人税等合計	181	263	82	145.5%	新規上場による資本金の増加等により法人税等が増加
当期純利益	528	431	△96	81.7%	法人税等の増加により減益
親会社株主に帰属 する当期純利益	528	431	△96	81.7%	上記と同じ

(注) △はマイナスを示す

※ 介護事業所新設のための初期投資負担に対して、地方自治体からの補助金が支給されております。補助金収入は営業外収益に計上されており、初期投資費用(販売費及び一般管理費)から実質的に相殺されることを考えれば営業利益は実質的に増益となります。

3. 2024年3月期 連結業績予想

増収減益の連結業績予想ではあるが、2023年3月期に講じた事業拡大のための施策(株式会社シルバーアシストの子会社化、新規事業所の開設)、2023年3月期から続く物価高騰による食材費や光熱費の増加等の特殊要因がなければ、営業利益ベースで増益幅が拡大する予定である。

2023年3月期に子会社化した株式会社シルバーアシストの改善、新規事業所の運営が軌道に乗り、利益拡大に貢献するまでになるのはまだ先であるが、投資をいかに早く利益貢献に結びつけるかがポイントであると考えている。また、増加する食材費や光熱費等の対策については会社努力では限界レベルにまで達している感があるが、引き続き取り組んでいく。

(単位：百万円)

	2023年 3月期	2024年 3月期	増減額	前年比	コメント
売上高	9,619	10,449	829	108.6%	・株式会社シルバーアシストの子会社化による8事業所及び2023年3月期に新設した4介護事業所及び1福祉用具営業所の通年稼働による売上高の増加
営業利益	543	552	8	101.6%	・株式会社シルバーアシストの子会社化による8事業所及び2023年3月期に新設した4介護事業所及び1福祉用具営業所の通年稼働によるコストの増加 ・物価高騰による食材費や光熱費の上昇 ・従業員の年間休日120日体制にしたことによる人件費の増加等 によるコスト増を吸収し、営業利益は微増
経常利益	736	642	△93	87.2%	2023年3月期に支給された新設介護事業所3ヵ所に対する補助金収入(整備補助金)の剥落等により補助金収入が減少し、経常利益は減益
親会社株主に帰属する当期純利益	431	401	△30	92.9%	経常利益の減益により、親会社株主に帰属する当期純利益は減益

(注) △はマイナスを示す

4. 2024年3月期 配当について

	第2四半期末 (中間)	期末	合計	配当性向(連結)
2023年3月期	13円00銭 (記念配当 5円00銭含む)	20円00銭	33円00銭	20.3%
2024年3月期(予想)	13円00銭	20円00銭	33円00銭	22.0%

(注) 2023年3月期の期末配当は第36期定時株主総会で承認されることが条件になります。

当社は、株主に対する利益還元を重要課題の一つとして認識し、株主への配当を安定かつ継続的に実施することを基本方針としています。

2023年3月期には株式上場を記念して、中間配当について記念配当5円を含めた13円(年間33円)としておりましたが、2024年3月期の中間配当では普通配当13円として2023年3月期の配当水準(年間33円)を維持する予定です。

今後、業績の拡大に努め、自己資本比率が50%未満の間は連結配当性向25%を目指す所存であります。自己資本比率は株式上場に伴う増資、2023年3月期での親会社株主に帰属する当期純利益431百万円の計上により、自己資本比率が2022年3月期の26.1%から7.4ポイント増加し2023年3月期では33.5%となっております。

以上